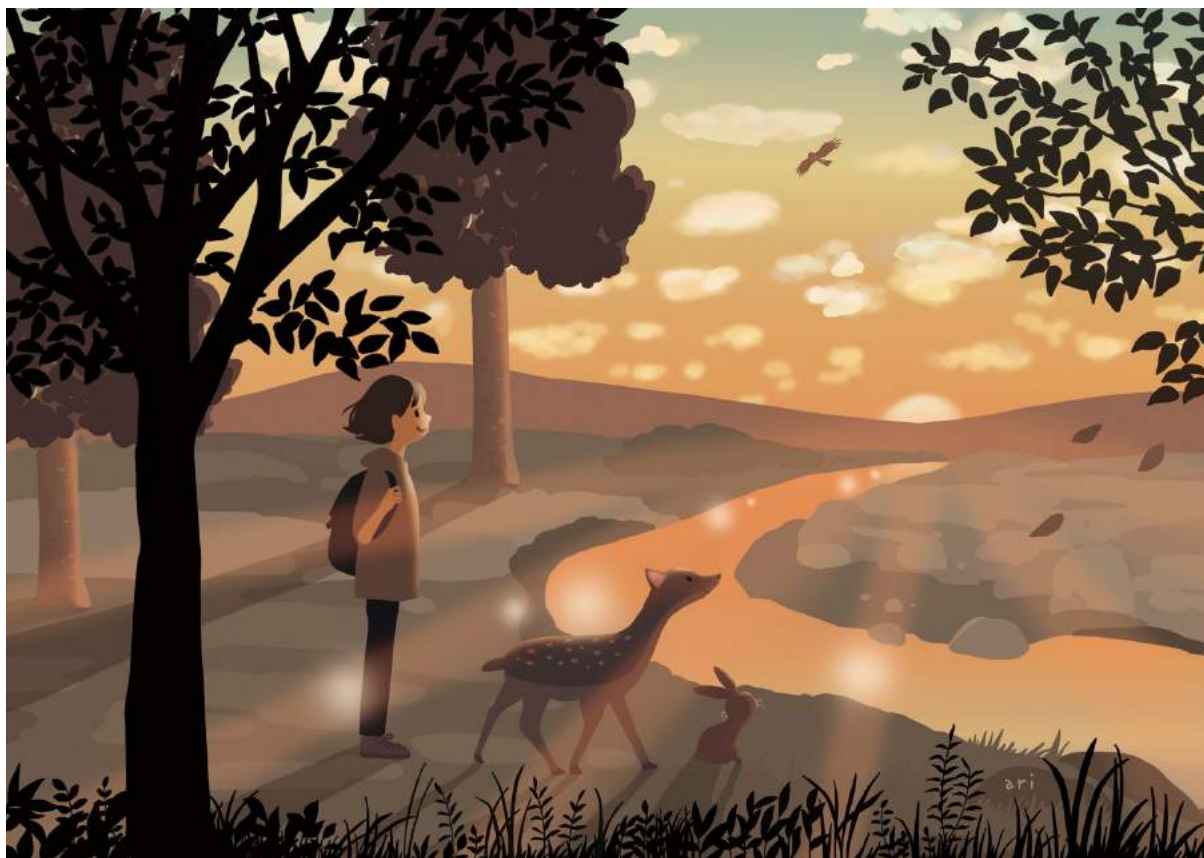




豊かな森川海

2016
10.15
第20号



都市公園のあり方特集号 目次

- 【講演-1】 これからの公園のあり方について 2~3
- 【講演-2】 公園ゼミ 3つの班からの多聞台東公園への提案 4~5
- 【講演-3】 市民の暮らし、都市の活力を支えるための
公園の多様な機能 6~7
- 【里海づくり】 豊かな海づくりに向けた実践活動始まる 8~9
- 【会務報告】 活動報告・活動計画 10~11
- 【表紙のことば】 11

まちづくりと連携した都市の自然再生活動を実施している山田川流域では、住民と多聞台里山クラブを組織して多聞台緑地（多聞台東公園）の里山づくりなどに取り組んでいます。去る8月7日（日）、活動の一環として「公園のあり方を考える会」を多聞台地域福祉センターにおいて開催しました。今号は、都市公園のあり方についてご講演をいただいた方々の講演要旨をご紹介します。

【講演－1】 これからの公園のあり方について

デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）
副センター長 永田宏和



Photo by Yoshiaki Tsutsui/AXIS

■風の人、水の人、土の人

まちづくりの基本的な考え方として、「風、水、土の話」があります。「風」の人は、その土地に「種」を運ぶ、刺激を与える存在。「水」の人は、その土地に寄り添い、種に水をやる中間支援的存在。そして、「土」の人は、そこに居続けししっかり根を張り、活動し続ける存在です。KIITOは究極の「風の人」を目指し、良い「種」を作り続けることを目指しています。

イベントなどのプログラム（種）は完璧に完成されたものが良いとは限りません。そのプログラム（種）が、楽しく、美しく、感動的で、非日常であることが大切で、市民や子ども、学生、ボランティア、デザイナー、アーティストなど地域の様々な人たちが関われる余地があることが重要です。



公園ゼミの様子

■公園ゼミ

昨年11月から健康をテーマに、これからの公園のあり方考えるゼミを開講しました。その対象公園として、多聞台東公園を選定させていただき、2月までの約3か月間、3つのチームに分かれ公園でのプログラムを検討してきました。

以前にも公園をテーマにしたゼミを開講したのですが、そこでは、ピザ窯のある公園として、仮設でつくることのできるピザ窯のアイデアが生まれました。ピザを介して、地域の人がつながるきっかけを作ろうというもので、実際の公園でもピザパーティーが計画され、100人を超える地域の方が集まるイベントが開催されました。ピザ窯の完成までには何度も実験を繰り返し、ピザづくりは神戸のパン職人の方に協力を仰ぎながら進めました。

■世界の公園の一潮流、公園での新たなプログラム紹介

私はまちづくりや防災教育の専門家で、公園の専門家ではありませんが、仕事柄海外出張が多く、その際に様々な公園を見て歩いていますので、その一部をご紹介します。

タイ・バンコクの公園：最近では日本でも健康器具のようなものが公園に設置され、高齢者の方が集まる場になっているところもありますが、バンコクではスポーツジムのような健康器具が設置され、地域の方が毎日健康のために活用し

ています。広場では太極拳なども行われ、終日公園には人が集まっています。

ニューヨークの公園：「High Line」は、廃線になった線路敷を利用して作られた、非常に細長い公園です。地域の方だけでなく、観光地としてもとても人気があります。様々な種類の植物が植えられており、椅子も多く、くつろげる空間になっています。座りながら歩く人々を眺めているのも面白いです。また最近では、「Low Line+lab」という室内の公園プロジェクトも発表されました。ニューヨークは晴れた日が少なく屋内で過ごすことが多いので、ハイテク技術を使い、室内に光を取り込み植物を育て公園をつくらうとしています。

ニューヨークで一番有名な公園でもある「Bryant Park」は、多彩なプログラムのある公園です。移動可能な机や椅子がたくさん配置され、思い思いに公園で過ごすことができます。中にはキヨスクやレストランもあり、チェスやオセロなどテーブルゲームコーナーもあります。屋外図書コーナーも設置されており、雑誌や新聞を見ることもできます。また映画上映会やヨガ、スケート場など多彩なイベントにも活用されています。



■ニュースポーツ、ニューゲーム

日本やアジアでもニューヨークと同じように、将棋や囲碁などが屋外で行われている地域もあります。最近注目されているのが、ニュースポーツやニューゲームと呼ばれる今まであまり知られていなかった、新たに生まれた競技です。クップというスウェーデン生まれの「薪」を投げるエコロジカルスポーツや、公園内にホールを設定し、ゴルフボールの代わりに背引用のディスクを投げ入れるディスクゴルフ、木と木にロープを張り、ロープの上でパフォーマンスを行うスラックラインなど、小さい子どもから高齢者まで年齢問わず楽しめるものがたくさんあります。

■まとめ

最近では「ポケモン GO」が話題です。今まで殺風景だった地域の公園にたくさんの方が溢れています。公園でのプログラムを考える場合は、誰が、誰のために、何を行うのかがとても重要です。「Bryant Park」は、公園管理者がニューヨーカーのために、多彩なサービスやプログラムを展開しています。まちの公園で見かける将棋や囲碁は、高齢者が自分たちのために展開しています。ニュースポーツは広めたい組織が多様な地域や世代のために、スポーツ愛好家が仲間を増やすために展開しています。多聞台東公園では誰が誰のために、何を展開するのでしょうか。

ピザ窯の提案もそうですが、「食」は皆が関心のあるもので、テーマとして吸引力があり、人が集まるきっかけになります。また、「健康」や「スポーツ」のテーマも、公園というフィールドにぴったりです。公園は、季節やそれぞれの地域のニーズに合わせて様々な形で活用できる大いなる可能性を秘めた場所です。

【講演－2】 公園ゼミ 3つの班からの多聞台東公園への提案

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)
チーフスタッフ 加藤慧



■＋クリエイティブゼミ A班の提案

何歳になっても誰かから必要とされることが、健康に暮らしていく源になるのではないか。歳をとっても自分の特技を地域で生かせることが重要。そのためには、特技を持った人を発掘する仕掛けも必要で、発掘した特技や才能をつなげ届ける仕組みを考え、「SATOYAMA ART WALK」「PARK SUMMIT」の2つを提案。



「SATOYAMA ART WALK」は、すでに地域で行われているウォークラリーを活用し、公園の里山活動とも連携する。里山活動で出る廃材を利用したミニイベントを一般公募し、コース随所で展開。イベント終了後に、当日の様子の写真や作品を公園内に展示し、アーカイブできる仕組みを考案。ミニイベントのアイデアは、落ち葉のマットでヨガ教室、地元のお医者さんによる森の中での視力検査、ボーイスカウトによる伐木で炊き出しなど。周辺の芸術系大学や福祉施設との連携も図る。

「PARK SUMMIT」は、活動的に公園を管理運営している団体の人たちが手を組み、結成する。地域にいる様々な才能を持った人たちをイベントで発掘し、その人たちを他の地域の公園に派遣するなど連携を図っていくという仕組み。特技を持った人を発掘するイベント「ART WALK」と、発掘された人材をつなげる「PARK SUMMIT」という仕組みが合わさることで、どこにでもある公園で多様なプログラムが展開され、他の公園とのネットワークも形成される。こうして未来の公園機能に新たな可能性が生まれる。

■＋クリエイティブゼミ B班の提案

対象公園の魅力はやはり森である。森の活用を通じて、高齢者や若者が世代を越えて学び合う場をつくることを提案。森の整備は現在、里山クラブが行っているが、整備や管理を次の世代へ引き継ぎ、伝えることも同時に進めていく必要がある。みんなで森について考える場を設けることで、新しい世代の参加や交流を増やせるのではないか。この企画を「森づくり大作戦」と名付け、公園

や森での活動の見える化、みんなが参加したくなる環境づくりをコンセプトに企画。まずは、話し合う場づくりとして、間伐作業で出た木材を利用し、イスを作る。この際には建築家や家具職人などに指導を仰ぐ。さらに、伐採した竹を使い、竹グルメイベントを開催。食を通してつながりを生み、次へのアイデアを検討する。この対象公園の森には、様々な動植物が生息しているため、森の動物図鑑の看板づくりを行う。森での活動を行うたびに、公園内の動物の情報やイラスト付き看板を設置していく。



公園での活動を通して、森の知識を学び、管理にも新たな世代の視点を取り入れ、活気ある交流の場を創出していく。高齢者と若者が相互に学び合い、新たな生きがいや役割を発見することで、豊かな地域社会を実現する。

■+クリエイティブゼミ C班の提案

公園は地域住民にとって、コミュニティを形成する“ハレの場”であるべきだ。心、体、場のバランスが取れた状態を「健康」と考える。地域で取り組んできた2年間の公園での活動をカレンダーにまとめた。これまでの活動を称え、どうやって公園に人を集めていくのかという新たなアイデアを加え、未来カレンダーを制作した。



場の健康づくりとして、公園の稼働率を上げるための軸としてのイベントを1年通して行う。まずは拠点づくりが必要。市内で実際に行われている活動の調査を行い、様々な活動を展開する団体がたくさん見つかった。こうした先駆者たちを公園に巻き込んでいきたい。拠点基地づくりからスタートし、ファームづくり、野菜栽培、公園整備の一環として行う間伐作業で出た資源を農機具の素材に活用。里山を生かした子ども向けのワイルドな遊びも。つる科植物の除去の時期には、草木染イベントを行う。6月にはファームの収穫祭。夏休みには、星空観察会・映画祭。9月には防災の日を絡めた防災バーベキュー。10月には収穫祭に合わせた夜の音楽祭。11月には木こりサミット。市内各所で活発に活動する団体が集まり、自分たちの活動を披露し、称え合う場に。

カレンダーの中の企画はたくさん並ぶが、全てを実行するというのではなく、地域の方が実施したいと思うきっかけになればと考え提案した。

【講演－3】 市民の暮らし、都市の活力を支えるための公園の多様な機能

神戸市建設局公園部計画課
大西 潤

1. はじめに

我が国は、2008年の約1億2,800万人をピークに人口減少社会に突入し、2013年に25%を超えた高齢化率は今後さらに進行すると見込まれています。

また、道路、公園、下水道などの社会資本は、国や地方自治体の財政状況が厳しい中で、今後の効率的な整備や老朽化した施設の適切なメンテナンスが課題となっています。

私たちが暮らすまちの公園も、時代の変化や多様化するニーズに対応していくことが求められています。そこで、今後さらに活用していくべき公園の機能についてご紹介いたします。

2. 公園の主な機能

公園は「休養・休息の場」や「生物の生息環境」といった様々な機能を持つとされています。つい先ごろ、国から公園の持つ7つの主な機能が示されました。それらは、機能というよりこれからの公園に期待される7つの視点と行っていいでしょう。それぞれの機能を活かした先進事例写真をご覧ください。

観光 公園は、観光客を魅了します



国内外から多くの方が、ここでしか見ることができない絶景を、見に訪れています。

(左 国営ひたち海浜公園)

134年ぶりに往時の姿を取り戻した金沢城三御門

(右 金沢城公園 金沢市)

活力 公園は、まちににぎわいをもたらします



満月の週の土曜日にだけ公園に現れる特別なBAR

(左 西川緑道公園 岡山県)

市民が想いを込めて寄贈した本が新たな出会いを生み出します。アウトドアライブラリー

(右 東遊園地 神戸市)



子育て 公園は、健康で豊かな暮らしを支えています



保育士が常駐する、公園と一体となった子育て施設「てくてく」

(左 千秋が原南公園 新潟県)

自然の中でどろんこになりながら思いっきり遊べる空間です。

(右 こどもの森緑地 練馬区)

防災

公園は、災害から都市を、命を守ります



大規模火災の焼け止まりとなって、市街地の延焼防止に貢献

(左 大国公園 神戸市)

自衛隊等が被災地に展開するための後方支援拠点として機能

(右 神戸総合運動公園 神戸市)

環境

公園は、生物を育み都市環境を守ります

市民の協力で、市の花日本スズランの自生地を保全し、地域固有の植物を守っています。

(左 富岡西公園 札幌市)

環境学習ゲーム「動物の親子」

(右 国営武蔵丘陵森林公園)



景観

公園は、都市に風格をもたらします



市民の7割が、四季を通じて様々な表情を見せるこの歴史ある公園を「市の自慢できるもの」として挙げています。

(西山公園 鯖江市)

文化

公園は、日本の地域の歴史・文化を継承します



地域の伝統的な特産品である「菊炭」の製法を地元の団体が継承しています。(左 一庫公園 兵庫県)

近代和風住宅(数奇屋造)を保存するとともに、和の催しを開催し活用しています。(右 舞子公園 兵庫県)



1. 多様な機能を引き出すために

これらご紹介した公園の機能を引き出すために最も期待されているのが「民との連携」です。これまで行政主体で行われてきた公園の整備、維持管理ですが、例えば、民間のノウハウを取り入れた公園の整備・運営を行ったり、市民参加による森づくりや芝生化を行ったり、民間や市民の皆さんと行政がうまく役割分担をすることで、より親しんでもらえる公園が増えていくと考えています。

神戸市の公園におきましても、多くの皆様と連携し、様々な取り組みにチャレンジしていきたいと考えていますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【里海づくり】

豊かな海づくりに向けた実践活動始まる！

潮干狩りで賑わう須磨海岸の復活を目指して

理事長 島本信夫

○瀬戸内法の改正にともなう新たな行政施策の展開

昨年10月に瀬戸内法（瀬戸内海環境保全特別措置法）が42年ぶりに改正され、瀬戸内海の目指すべき方向を「きれいな海から豊かな海へ」と大きく転換しました。詳細については、本誌第17号及び第19号の瀬戸内法改正特集号で紹介しています。改正された「瀬戸内海環境保全基本計画」では、「沿岸域の環境の保全、再生及び創出」、「水質の保全及び管理」、「自然景観及び文化的景観の保全」及び「水産資源の持続的な利用の確保」の4本柱となっています。

瀬戸内法が制定されて以来、陸上からの総量負荷削減を主目的に水質改善に取り組んできた結果、水質的には「きれいな海」は実現しましたが、栄養塩濃度の低下にともない生態系は縮小してしまいました。一方、沿岸域の都市化・工業化にともない、白砂青松と謳われたかつての美しい砂浜や生き物を育む藻場や干潟は減少の一途をたどって生物多様性は低下し、海岸線は無機質なコンクリート護岸で覆われ、人々が海と触れ合う機会もめっきり少なくなっていました。海の水はきれいになりましたが、豊かな海は未だ失われたまま回復していません。

今回の法改正を受けて、兵庫県では瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するため、「沿岸域の環境の保全、再生及び創出」を目標とした施策として「地域団体等による藻場・干潟等の再生・創出支援事業」（助成事業）を立ち上げました。この事業では県下5か所（尼崎運河、須磨海岸、明石市魚住、高砂海浜公園、相生湾）の活動が採択され、当会はこのうち須磨海岸における里海づくりを実施することになりました。



里海づくりに取り組む須磨海岸

○砂問題研究会の実践事業

当会は2012年7月に砂問題研究会を立ち上げ、流域の土砂の移動が生態系に与える影響について調査研究活動を進めてきました。その過程で、3人の有識者を招いて公開講座を開催し、森・川・海それぞれの視点から資源としての土砂の問題を取り上げてきました。詳細は本誌第5号、第6号、及び第8号に掲載しています。結果を要約すると、①土砂の移動は非連続的で、大雨時に一気に移動し、時には土砂災害を引き起こす。②土砂の源泉である森及び移動経路の河川では、戦後土砂災害の防止を主目的に、「土砂を留める」工法が施工されてきた結果、海への土砂の流入が著しく減少した。③土砂は海岸・海底を形成する基本物質であるとともに、土砂に含まれる様々な物質の移動・循環は生態系にも大きな影響を与える。④今後は「防災」と「環境」が両立する総合的土砂管理が必要とされ、土砂を安全に流すあるいは堆積した土砂を有効に利用するといった施策が求められる。

須磨海岸では海岸の遠浅化のため、神戸市によって昨年12月から加古川に堆積した約14万m³の砂が投入されています。当会にとって、砂問題研究会での議論がよいよ実践活動に移される機会となりました。

○須磨海岸における里海づくり

兵庫県の助成を受けて、8月28日に須磨海岸における里海づくりの実施母体として「須磨里海の会」が組織されました。構成団体は当会のほか、神戸市漁業協同組合、須磨海浜水族園ボランティアの会、神戸ライフセービングクラブ、須磨FRSネットで、会長には当会理事で神戸市立須磨海浜水族園の吉田園長が就任しました。



ホトトギスガイ

かつて須磨海岸ではアサリがたくさん獲れて海水浴はもとより潮干狩りで賑わっていました。須磨里海の会では、かつての潮干狩りで賑わう豊かな里海を再生するため、本年度①アサリの野外増殖試験、②生物相と生息環境のモニタリング、③アサリの生息を阻害するホトトギスガイの防除事業、④学習会、講演会の開催などを計画しています。当会は兵庫県の助成を受けて、主に③と④の事業を実施します。

ホトトギスガイは殻長2cm程度の小さな二枚貝ですが、カーペット状の群落（ホトトギスマット）を形成し、広範囲に海底を覆い占有することによってアサリをはじめ砂浜性底生生物群集の生物多様性を著しく低下させます。ホトトギスマットは春から秋にかけて成長し、越冬すると堅牢さを増してより防除が困難になることから、秋季に物理的に細断・破壊することによって越冬・定着させないようにすることが、生物多様性や生産性の高い砂浜域の再生・創出に有効と考えられます。このため、本年度はホトトギスマットを細断する桁曳漁具を製作し、陸上と海上から桁曳漁具を曳航してホトトギスマットを細断・破壊するとともに、海底から剥離させて再定着を防ぎ、本来の多様なベントス群集の形成を促進させる計画です。このホトトギスマットの防除活動は、下図に示す須磨海岸で、9月25日（日）（実施済み）、10月23日（日）、11月13日（日）の3回行い、3月頃に効果調査を行う予定です。



桁曳漁具



桁曳漁具の曳航（9月25日）



須磨海岸における養浜事業及び活動実施場所の範囲

【会務報告】

1. 活動報告

1) 住吉川流域の森～川～海を結ぶ自然再生活動

①東お多福山草原保全・再生活動

7月20日(水)52名の参加のもと、夏の植生調査と調査区のササ刈りが行われました。ガイド養成講座を修了された三宅理事がガイド役として活躍されています。

②住吉川アユの生息状況調査兼魚道効果調査

今年3月に12基の魚道が完成したことを受けて、8月12日(金)と8月22日(月)に最終の魚道効果調査を行いました。その結果、アユは都市河川区域全域に生息域を広げ、生息尾数は1万尾を超えるという、大きな成果を示しました。調査結果は次号で詳しく紹介します。

③大阪湾生き物一斉調査結果報告会

9月22日(木)大阪市立自然史博物館において本年度の大阪湾生き物一斉調査結果報告会が開催されました。当会からは吉田理事と白井理事が出席し、6月5日に住吉川河口干潟で実施した調査結果を報告しました。吉田理事はアサリと里海活動について話題提供を行いました。

2) 山田川流域のまちづくりと連携した自然再生活動

①多聞台緑地の里山づくり

猛暑の8月7日(日)は野外の活動を中止し、多聞台地域福祉センターにおいて「公園のあり方を考える会」を開催しました。



公園のあり方を考える会

デザイン・クリエイティブセンター神戸の永田副センター長、公園ゼミ生の代表3名、神戸市建設局公園部計画課の大西係長から講演をいただきました。講演要旨は本誌に掲載したとおりです。

残暑の残る9月11日(日)は多聞台緑地の竹を利用して、地域の民生児童委員と共催でそうめん流しを行いました。100名を超える地域の子どもや住民が集まり、竹の箸と容器を手作りし、そうめんだけでなく、ミニトマト、ソーセージ、ブドウ、お

菓子までどんぶらこと流れてきて、子ども達も大満足。“食に勝るものはなし”を実感しました。10月2日(日)は定例の里山保全活動に汗を流しました。

②山田川の生物相調査

7月23日(土)、8月26日(金)、9月23日(金)に多門寺近くの山田川でトンボ類に焦点を当てた生物相調査を行いました。12月まで(11月を除く)毎月1回実施します。



子どもも大人も大満足のそうめん流し

3) 須磨海岸の里海づくり

8月28日(日)須磨海浜水族園において須磨里海の会設立総会が開催され、吉田理事(須磨海浜水族園園長)が会長に就任しました。9月25日(日)に第1回のホトトギスマットの防除活動が行われました。詳しくは本誌をご覧ください。

4) その他

①理事会

7月28日(木)に多聞台地域福祉センターにおいて、平成28年度第2回理事会を開催しました。理事会終了後、会報第19号(瀬戸内法改正特集号 No.2)を発送しました。

2. 活動計画(10月～12月)

1) 住吉川流域の森～川～海を結ぶ自然再生活動

①東お多福山草原保全・再生活動

11月23日(水)、12月10日(土)に東お多福山の草原保全・再生活動を行います。

②五助の森づくり

11月13日(日)に植樹活動を行います。

③住吉川自然再生検討会

10月(日程調整中)に今年の魚道効果調査の結果を受けて、河川管理者(兵庫県神戸土木事務所)と住吉川の川づくりに関する検討会を開催します。

2) 山田川流域のまちづくりと連携した自然再生活動

①多聞台緑地の里山づくり

11月13日(日)、12月11日(日)10時から定例の里山保全活動を行います。

②山田川生物相調査

10月と12月(日程未定)に多門寺近くの山田川でトンボ類に焦点を当てた生物相調査を行います。

3) 須磨海岸の里海づくり

10月23日(日)、11月13日(日)に須磨海岸において砂浜性ベントスの生物多様性や生物生産性の低下を招くホトトギスマットの防除活動を行います。また、12月頃には専門家をお招きし、里海づくりやホトトギスガイに関する勉強会を開催します。

4) その他

①ひょうご森の祭り2016

11月6日(日)洲本城周辺においてひょうご森の祭り2016が開催されます。

②漁業者の森づくり(虹の仲間で森づくり)

12月3日(土)10時から神戸市西区の神出神社において兵庫県漁業協同組合連合会主催の漁業者の森づくりが開催されます。

活動に参加を希望される方は事務局までお問い合わせください。

【表紙の言葉】

夕暮れの優しい光に包まれた幸せな瞬間を表現したくて、試行錯誤しながら描いた一枚です。珍しくぼかしを多用しています。新しい描き方をするのって楽しいですね。美しい風景や人の言葉など、いろんなものを原動力として少しずつ絵の幅を広げたいです。そのためにももっと外に出ていろんなものを吸収したいと思うこの頃です。(ありむら あや)



豊かな森川海 第20号

2016年10月20日発行

発行 特定非営利活動法人 豊かな森川海を育てる会
〒655-0007 神戸市垂水区多聞台 3-11-12-603
TEL・FAX 078-782-3164

編集・印刷 島本信夫・白井信雄
イラスト 有村 綾

E-mail shimamoto@mtf.biglobe.ne.jp
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~yutakana-morikawaumi/>